

医療薬学5（中枢神経・末梢神経・筋疾患の病態と治療）

責任者・コーディネーター	神経科学分野 駒野 宏人 教授 臨床医化学分野 那谷 耕司 教授		
担当講座・学科(分野)	神経科学分野、臨床医化学分野		
対象学年	4	区分・時間数	講義 13.5 時間
期 間	前期		
単 位 数	1 単位		

・学習方針（講義概要等）

医療薬学5では、機能形態学やこれまでの医療薬学の講義で習得した正常な人体の各器官系の形態・構造と機能、代表的な症候に関する知識に加え、生化学、細胞生物学等の講義により習得した知識を基に、中枢神経、末梢神経、筋の疾患について病理、病態に重点をおいて講述する。また、これらの疾患の薬物治療、非薬物治療について概説し、個々の疾患の治療における薬物治療の位置づけについての理解を深める。本科目は特に「薬理学」「医療薬学1」「医療薬学2」「医療薬学3」「医療薬学4」との関連が深く、これらの科目での学習は本科目を履修する上でのサポートとなる。

・教育成果（アウトカム）

中枢神経、末梢神経、筋の疾患に関連した正常の形態・構造と機能についての知識に基づき、これらの疾患の病理、病態、臨床検査法、薬物治療、非薬物治療の基礎的な知識を習得する。これにより個々の疾患の治療における薬物治療の位置づけ、問題点についての理解できるようになる。

(ディプロマ・ポリシー：2, 4, 7, 8)

・到達目標（SBO）

1. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択）を説明できる（608）。
2. てんかんについて、病態・薬物治療を説明できる（609）。
3. パーキンソン病・認知症について、病態・薬物治療を説明できる（611, 612）。
4. 統合失調症、うつ病、躁うつ病（双極性障害）について、病態・薬物治療を説明できる（606, 607）。
5. 薬物依存症、アルコール依存症について説明できる（616）。
6. 中枢神経疾患の社会生活への影響および薬物治療について討議できる（615）。
7. 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる（610）。
8. 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる（613）。
9. 以下の疾患について説明できる。
脳腫瘍、脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症（602, 616）

・講義日程

(矢) 西 104 1-D 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
4/13	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その1 1. 不安神経症（パニック障害と全般性不安障害）、心身症および薬物依存症、アルコール依存症について治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択)を説明できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
4/20	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その2 1. 統合失調症、気分障害について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
4/27	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その3 1. 認知症について、治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
5/11	月	3	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その4 1. パーキンソン病について治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
6/1	月	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その5 1. プリオン病、筋萎縮性側索硬化症、筋ジストロフィーについて、病態・薬物治療について説明できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。
6/8	月	4	神経科学分野	駒野 宏人 教授	中枢神経疾患の病態と治療 その6 1. てんかんについて治療薬の薬理、および病態・薬物治療について説明できる。 2. 中枢神経疾患の社会生活への影響および薬物治療について討議できる。 事後学習：授業で配布された資料をしっかりと復習すること。

6/15	月	4	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>神経・筋疾患の病態と治療（1）</p> <p>1. 脳血管疾患（脳内出血、脳梗塞（脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血）、くも膜下出血）について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）を説明できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学習：「薬がみえる vol.1」の該当する範囲を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で説明した範囲のレジメを見直し、改めて出欠確認問題を解いてみる。</p>
6/22	月	4	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>神経・筋疾患の病態と治療（2）</p> <p>1. 片頭痛について、治療薬の薬理（薬理作用、機序、主な副作用）、および病態（病態生理、症状等）・薬物治療（医薬品の選択等）について説明できる。</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学習：予め配布してある講義レジメおよび「薬がみえる vol.1」の該当する範囲を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で説明した範囲のレジメを見直し、改めて出欠確認問題を解いてみる。</p>
6/29	月	4	臨床医化学分野	那谷 耕司 教授	<p>神経・筋疾患の病態と治療（3）</p> <p>1. 以下の疾患について説明できる。</p> <p>脳腫瘍、脳炎・髄膜炎、多発性硬化症、筋萎縮性側索硬化症、進行性筋ジストロフィー、Guillain-Barré（ギラン・バレー）症候群、重症筋無力症</p> <p>【双方向授業：コメントペーパー】</p> <p>事前学習：予め配布してある講義レジメおよび「薬がみえる vol.1」の該当する範囲を読んでおくこと。</p> <p>事後学習：講義で説明した範囲のレジメを見直し、改めて出欠確認問題を解いてみる。</p>

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	薬がみえる vol.1	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2014
教	病気がみえる vol.7 脳・神経 第2版	医療情報科学研究所 編	メディックメディア	2017

参	薬物治療学 改訂8版	吉尾 隆 他 編	南山堂	2019
---	------------	----------	-----	------

・成績評価方法

レポート(10%)、確認試験(10%)、定期試験(80%)で評価する。

・特記事項・その他

本講義では、習得した知識の確認のため講義時間中に演習を行う。演習の解答についてはその講義の中で解説する。

シラバスを参考にして、該当する内容を教科書・参考書で予習しておくこと。また、講義で用いたプリントおよび教科書の該当する箇所は復習しておくこと。授業に対する事前学修には30分、事後学修には1時間を要する。更に、定期試験前には14時間程度の学修時間を確保する必要がある。

課題や確認試験については、その都度返却して解説を行う。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	パソコン(パナソニック、CF-SX2)	1	講義資料の閲覧
講義	iPad mini (Apple MUU32J/A)	1	講義資料の閲覧